

# 年鑑 ナイフマガジン

Knife Magazine 2016

C o n t e n t s

- 002 Topics
- 010 新作フォールダーも登場！  
**松田菊男** KIKU KNIVES
- 022 **タクティカルナイフ、進化の歴史**  
Tactical knife Chronicle
- 032 **アトランタ・ブレイドショー 2016**  
ATLANTA BLADE SHOW 2016
- 040 **日本のナイフショー**  
銀座ブレイドショー 2016 冬  
東京フォールディングナイフショー  
2016JCKM/JKG 鍛造部会合同カスタムナイフショー
- 058 My First Knife  
**感性を刺激するナイフ**
- 066 **太田公明カスタムナイフ** OHTA Knives
- 074 プロフェッショナル直伝テクニック  
**鈴木義男の”技”** カスタムナイフのリペア
- 082 カスタムナイフメイカー  
**宮前俊行** Toshiyuki Miyamae
- 090 US ナイフ事情 特別編  
**RECON 1** カスタムタクティカルナイフ・ショップ
- 146 LOVELESS Knife Field Test  
**ラブレスのデイクソン・ファイターでディア・ハンティングに挑戦！**
- 152 **ソルバング・カスタムナイフショー**  
SOLVANG Custom Knife Show
- 160 最初に手にするならこの一本！  
**特選入門者向けナイフ**
- 162 ニッポン・ライフ見聞録  
**自然と共に生きる刃物**
- 096 かくまつとむのナイフコラム 1      126 実践的道具考 ●星野欣也      172 ジェス・ホーンの「モードック・スキナー」  
JESS HORN' s MODOC SKINNER  
●坏正史
- 114 ハンティング・パーフェクション  
●中條高明      134 インフォメーション      175 かくまつとむのナイフコラム 2
- 124 鍛冶屋フィールドワーク  
●かつきせつこ      136 大工道具のかたち  
●土田昇/秋山実      176 おくづけ

## 蒼龍

Soryu

全長 560mm ● ブレード長 390mm、ブレード材 OU、ハンドル材 マカルタ。価格 158,000 円。

全長 500mm 超の超大型作品。ナイフと言うより中世ヨーロッパの剣を彷彿させるデザイン。ポイントからの緩い“S”字ラインが、一転逆 R ラインへ移行。ブレードの 3/5 位置に現れた、セカンドポイントが印象的。鋼材厚 8.2mm。



# KIKU KNIVES 2016

世界的人気を誇る  
“Made in Japan”の最強ナイフ!!

# 松田菊男

●文・写真：長谷川朋之  
Text & Photos: Tomo Hasegawa

世界的な人気を誇る KIKU KNIVES。  
その原動力は、圧倒的な切削技術に裏打ちされた  
実用性とデザインの妙。  
そして途切れることのない新作リリース。  
今年はフォールダーも登場！  
日本発の最強ナイフは、ますます磨きがかかっている！

## 世界で人気の菊ナイフ

菊ナイフの勢いが止まらない！

ご存知の通り、キクさんこと松田菊男さんは日本のナイフシヨウで、いつも大勢のファンに囲まれている。

さらに凄いのが海外での人気。会社もしくは個人によらず、ナイフ業界関係者はもちろん、一般のナイフファン、仕事でナイフを使う法執行機関など関係各所の方々まで、キクさんを見つけたら握手を求めてくる。欧米では軽率に相手を誉めたりはしない。実力が伴っていて尊敬に値するからこそ、みな心から賛辞を述べる。一過性の流行などではないことは明らかだ。

KIKU KNIVES 主宰、松田菊男さん。日本ナイフの生産地である岐阜県関市で、40年以上ブレード削り職人として活躍。各メジャーブランドのナイフブレード研削を担当。その敏腕ぶりから、その存在が世界に知られるようになった。

叩き上げの削り技術。技一筋で世界に名声を轟かす刃物削り職人。

どんな形状であっても「素晴らしい刃付けが可能」という面で、日本を代表する技術者だ。

その類希な経験とテクニックを活か

し、オリジナルブランド菊ナイフを立ち上げ、オリジナル作品を展開。ホローにフラット、困難なハマグリ刃をも自在に操り、さらに各種の削りを自在に組み合わせ、素晴らしい作品を織りなす！オリジナル作にオーダーメイドなど、菊ナイフに世界が注目しているのだ。

## 技術と感性が、魅力の作品を生む

ブレードのスパラッシュ模様。そして、通称「マツカサ削り」というハンドルの滑り止め。菊ナイフ作品は形状が違っても、一貫して独特の意匠で仕上げられている。

いつも同じなのだから、時間が経つほどに飽きそうに思える。が、しかし。それどころか、このナイフを持つことが「ナイフ好きにとってのステイタス」であるかの如く、菊ナイフを求める人が増え続けている。ビギナーだけではなく、「過性の人気」がもしれない。しかし、世界中にリピーターが多くなるのだ。

その理由は「機械に真似できないワザ」に尽きるようだ。

キクさんの研削の特殊技能で作られるナイフとしての魅力そのものが多くの人を惹きつけて止まないのだ。

現代、機械で出来ない事はほとんど無くなってきている。キクさんの「削り」は

# Tactical Knife Chronicle

●文・写真：長谷川朋之  
Text & Photos: Tomo Hasegawa

## タクティカルナイフ 進化の歴史

タクティカルナイフというジャンルが定着しだしたのは1990年代後半だった。それまでのコンバットナイフやサバイバルナイフという分野の実用性が急速に高められて再構築。過度な装飾や無駄を省いた“質実剛健”ナイフとして新たにスタイルが確立されたのだった。それから約20年。タクティカルナイフの進化の歴史を、数々の名作の写真とともに振り返る。



# BLADE SHOW 2016

## アトランタ・ブレイドショウ 2016

カスタムナイフの魅力は、そのメイカーの人となりを知ることによって倍増する。  
有名ナイフメイカーやその作品に出会うことの出来る“世界最大のナイフショウ”、それがジョージア州  
アトランタで開催される“ブレイドショウ”である。

文・写真：ヒロ・ソガ TEXT&PHOTOS:HIRO SOGA

会場の外では、有名メイカーによるセミナーが行われている。



ご存知、松田菊男さん。オークションに寄付したナイフと、これを競り落としたオーナー氏。

アーネスト・エマーソン氏のセミナーは、“現代におけるサバイバル”。



# 「感性」を 刺激するナイフ

My First Knife 2016

文・写真：長谷川朋之  
Text & Photos: Tomo Hasegawa

子どもたちにナイフを与えると、  
たちまち目を輝かせて「切る」ことを楽しみ始めた。  
使う喜びをストレートに表現する彼らに  
ダイレクトに響くナイフの数々を紹介しよう

〔三ツポン・ライフ見聞録〕

●文・写真・田中康弘

# 自然と共に生きる刃物

日本は国土の七割以上を森で覆われた森林国家である。長い歴史はこの森と共に育まれてきた。食料も水も材料も思想文化までもがその源を森から発してきたと言えるかも知れない。それほどに深い関係を持つ日本人と森、その仲立ちを果たしたのは道具としての刃物である。山仕事から始まり各現場で活躍する刃物と人々の生活を見ていく。

特別編